

## 年・頭・所・感

# いのちの年に

2025年がスタートしました。Society5.0をめざす第6期科学技術・イノベーション基本計画の最終年、様々な目標の5年ごとの区切りの年です。SDGsは創設から10年が経ち、目標とするゴールはあと5年で節目を迎えます。生物多様性30by30も2030年目標へあと5年、パリ協定の目標は温室効果ガス排出が2025年でピークアウトを迎え、各国の数値目標のひとつの節目は2030年です。

混沌の世界でこれらの目標は達成できるのか、コロナのようなパンデミックや国際紛争が絶えない近年において、目標達成は容易ではありません。

そんな中、今年は大阪・関西万博が開かれます。メインテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」で、まさに持続可能な開発目標(SDGs)達成のために、そしてSociety5.0実現を目指した様々な展示が目玉を引くことでしょう。準備段階でいろいろ騒がれた大阪・関西万博ですが、その中身を知れば、技術士の皆さんは、絶対に興味あると思います。関西本部からも出展すると伺っておりますので、リアルで見に行かれてはいかがでしょうか。

内容はホームページに詳しく載ってるわけですが、簡単に(まだ見てないのに)ご紹介します。

サブテーマが3つあり、いのちを救う、いのちに力を与える、いのちをつなぐ、となっています。

そして、このテーマを実現するため、シグネチャーパビリオンがこの万博の中心展示をすることとなっています。そこでは、「いのち」に関連する8つのテーマを、それぞれ、いのちを①響き合わせる、②広げる③高める④磨く⑤知る⑥育む⑦つむぐ⑧守る、といった各テーマごとに、それぞれのプロデュー

金 秀俊(こん ひでとし)

技術士(応用理学/総合技術監理部門)

公益社団法人

日本技術士会北海道本部 本部長



サーが主導し、展開しています。

各国パビリオンは、37カ国が参加しています。パビリオンのデザインは各国のテーマをモチーフとしてその建築デザインにも表現しているようです。持続可能な未来社会の実現が全体的な基底となり、それぞれの国の特徴的な展示が見どころです。

国内展示は、17のパビリオンがあり、それぞれ「いのち輝く未来社会のデザイン」につながる個別のテーマで展開されています。

パビリオン以外にも、様々な体験ができるように仕組みられています。未来のモビリティでは国内初の旅客水素電池船、レベル4自動運転や走行中給電など新技術融合のEVバス、空飛ぶクルマ、未来社会実証実験ロボットなど、技術屋の心を揺さぶることでしょう。また、会場に行かなくても世界中から誰でもアバターとして参加できるバーチャル万博。自動翻訳やAIなど、未来を先取りする超スマート社会を体験できるデジタル万博。カーボンニュートラルに向けた先進的な取り組み。さらには、リアル会場とバーチャル空間でSociety5.0が実現するフューチャーライフ万博など、テクノロジー満載です。しかし、全体としてこの万博が訴えるのは、技術を地球上のあらゆる「いのち」にどうつなげていくかという、人類の普遍的なテーマなのでしょう。

昨年の技術士全国大会では、ミライの豊かさを実現するために、新たな知と共創の輪を広げようと申し上げました。またここに、大きな学びの場が提供されています。自分自身がどう行動し、どう変わっていくか、今年はまだいのちと未来社会について考える、そんな年になればいいなと思う次第です。